

県立図書館だより

平成21年6月

青森県立図書館報 第4号

「太宰治生誕100年特別展」開催

青森県近代文学館では7月11日(土)から9月6日(日)まで、企画展示室(県立図書館2階)において「太宰治生誕100年特別展」を開催します。

1909(明治42)年6月、青森県下屈指の大地主の子として生まれた太宰治は、「罪、誕生の時刻に在り」との意識を自らの宿命として刻印し、破滅的な生活の中から珠玉の名作を生みだしました。

1948(昭和23)年6月、39歳の若さで世を去りますが、その作品は〈永遠の青春の書〉として今なお多くの人々に読み継がれています。

本展は、太宰生誕100年という大きな節目の年に当たり、太宰の文学と太宰を生んだ津軽の風土に改めて光を当てるものです。「人間失格」「斜陽」など太宰の代表的な作品の原稿、太宰の津軽時代ゆかりの資料を中心に、著作、遺品などを多数展示します。

また、県内外から著名な文化人や研究者を講師として招き、3回にわたって文学講座を開催します。



疎開中の太宰(芦野公園にて)



旧制弘前高校時代ノート「修身」の1頁

展示の詳細については「開催中の企画展」
(<http://www.plib.net.pref.aomori.jp/top/museum/dazai100.html>)

関連イベントについては「これからのスケジュール」
(<http://www.plib.net.pref.aomori.jp/top/museum/event21.html>)
をご覧ください。

目 次

「太宰治生誕100年特別展」開催	1
遠隔地返却サービスについて	2
こんなレファレンスがありました	3~4
子どもの本の紹介	5
郷土資料の紹介	6
近代文学館資料の紹介	7
カウンターから一言	8

「遠隔地返却サービス」について

平成21年4月1日より、県立図書館で借いた資料を、お近くの市町村立図書館等に返却できるようになりました。

(※ 一部の図書館等を除きます。)



◎対象資料

- ・対象資料は、図書資料です。(雑誌・AV資料は、対象外です。)

◎貸出方法

- ・借受時に、返却する市町村立図書館等を指定してください。

◎返却方法

- ・返却期限までに、借受時に指定した市町村立図書館等に返却してください。
- ・各図書館のブックポストは、お使いいただけません。直接、市町村立図書館等のカウンターに返却してください。



専用の袋に入れてお貸しします。
返却時は、専用袋に入れてお返しください。

※ 詳しくは、県立図書館へお問い合わせください。

お問い合わせ先

青森県立図書館 奉仕課
電 話 017-729-4300 (一般閲覧室)
F A X 017-739-8353

こんな レファレンスがありました

(第4回)



参考・郷土室では、「探している本が、どこの図書館にあるのか知りたい。」「こんなテーマの本はありますか。」「こういう事柄や人物を調べたいが、どんな本がありますか。」などというレファレンス（質問）に、図書館資料等を使って、お答えしています。

そのたくさんレファレンスの中から、毎回、事例を紹介していきます。

【質問】津軽藩主の居城であった「弘前公園」に桜が植えられたのは明治の初め頃で、当初、士族と平民の間で「桜」をめぐる争いがあったと聞いたが、桜が植えられた経緯と、どのような争いだったのか知りたい。

弘前城跡が弘前公園として一般開放されたのは、明治28(1895)年のこと。それから110余年、訪れる人たちを魅了し続けている公園の桜の木は、現在、ソメイヨシノを中心にシダレザクラ、八重桜など約50種、約2,600本あります。

【参考資料】 『弘前さくらものがたり』(弘前観光協会 平成15年刊)

弘前市役所ホームページ-弘前公園

(<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/shisetsu/park/index.html>)

【回答】

『弘前さくらものがたり』(弘前観光協会 平成15年刊)などの資料によると、公園のサクラは正徳5(1715)年に津軽藩士が京都嵐山からカスミザクラ25本を持ち帰り植えたことが始まりと伝えられているそうです。

明治になってからは、

「廃藩置県となってからは城内に足を踏み入れる人も稀で、城跡の荒廃はあたら三百年の芳しい歴史を誇る津軽一統の往時を偲ぶ影すらない有様となった。」

『月刊東奥』第一巻 第三號(昭和14年4月号)

といった様子で、藩主の居城であった弘前城の荒廃を嘆いた旧藩士菊池楯衛が、明治15(1882)年に私費を投じ「ソメイヨシノ(吉野桜)」の苗1,000本を植えたのが、桜の名所弘前公園となっていくきっかけとされています。

『弘前公園 愛されて100年』(陸奥新報社 平成7年刊)

『弘前市史 明治・大正・昭和編』(弘前市 昭和39年刊)など

この菊池氏の植樹については、『新編 弘前市史 通史編4-近・現代1-』(弘前市 平成17年刊)に、菊池氏と同じ旧藩士内山覚弥が、明治13(1880)年に自費で20本の桜を植えたことに触発されてのことと記述されています。

士族と平民の「桜」をめぐる争いについては、直接的なものはなかったようです。

前述の『弘前さくらものがたり』には、

「しかし、一部士族から「平民の花見は許さん」と苗木が抜かれ～」の記述がありますが、「平民」と記述があるのは、この資料だけでした。

また、弘前公園が一般に公開されるのは明治28(1895)年のことであり、前述の『月刊東奥』第一巻 第三號では、

「明治三十一年再び菊池^{きくち}氏により一千に近い苗木が植えられたのだが、心なき地方人の悪戯の手は菊池氏のこの努力も何のその漸く成長しかけた苗木を抜き取り～」とあり、成木の数は惨たんたるものであったと記述されています。

明治の混乱も収まりつつあったこの当時であっても、士族によって「城の中に桜を植えて、花見酒をやるなどとはもってのほか。」と、折られたり、抜かれたりし、残ったのはいくらもなかった。」(『新編弘前市史 通史編4-近・現代1-』)とありますが、直接、士族と平民が対して争ったような記述は確認できませんでした。

その後、内山氏らが植樹を続け、明治36年には本丸を中心として、二の丸、西の丸一帯への植付けが完了し、現在の弘前公園の原形となりました。

個人や団体からの桜の寄付は、昭和40年代まで続き、併せて公園の整備も行われ、現在の弘前公園の姿となっています。

『弘前公園 愛されて100年』
『月刊東奥』第一巻 第三号 など

【その他の参考資料】

『弘前市史 明治・大正・昭和編』(弘前市史編纂委員会編 昭和39年刊)

『弘前今昔 第五』(荒井 清明著 北方新社 平成10年刊)

『ここに人ありき 第5巻』(船水 清著 陸奥新報社 昭和48年刊)



●レファレンスは、電話・手紙・FAXのほか、電子メールでも受け付けています。

レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.net.pref.aomori.jp

子どもの本の紹介(第4回)

海と山に囲まれ、自然豊かな青森県。

県立図書館には、子ども向けの青森の自然に関する本が、たくさんあります。

今回は、その中から世界遺産である白神山地に関するものを2冊ご紹介します。ふるさとのすばらしい自然を守っていくために、私たちは何をすればよいのか、ぜひ、本を読みながら考えてみてください。



『マザーツリー』

村田 真一: さく 松岡 達英: え 小学館 1995 (児E マツカ*タ)

青森県と秋田県にまたがって広がるブナの原生林・白神山地に、"マザーツリーー母なる木"と呼ばれるブナの大木が立っています。森はまだ冬の様子ですが、春は確実に近づいています。沢は雪解け水がゴウゴウと流れ、数か月も雪の下にいたイワナは、ゆっくりと体を揺らめかせています。

4月になり、太陽は既にジリジリと強く、その光を受けて温まったブナの幹が周りの雪を解かしていきます。そして、そのときを待っていたかのように根元には"スプリング・エフェメラルー春のはかない命"と呼ばれている花や植物たちが、春を広げていきます。

やがて新緑の5月、芽ぶきの季節になり、マザーツリーの枝には、今年も新しい花が咲き、その花粉は旅をして相手を見つけ、再び成長していきます。

何百年にもわたって森を見守り続けてきたマザーツリーとその住人、そして、その森に豊かに育まれている生命たちの、春夏秋冬の物語です。

『白神山地ー8000年の〈生命〉をたずねて』(小学校高学年以上向け)

鈴木喜代春: 作 くもん出版 1998 (児郷291A ス*キ*キ)

白神山地は、1993(平成5)年12月に、「ユネスコ」の「世界遺産」に登録されました。ここがなぜ、日本で初の世界遺産に登録されたのでしょうか。それは、ほとんど人の手が加わっていないといわれるブナの森林が、約1万7千ヘクタールという広い面積で残っていること、その結果、自然の生態系がくずされることなく保たれていることにほかなりません。

しかし、かつてこの白神のブナの木が、人間の手によって切り倒され、すべてなくなってしまわないかという危機に見舞われていました。

そのような危機から、どのようにして白神の自然は守られることになったのか、一人の新聞発行者を軸に、白神のブナ林を守るための様々な活動が書かれたドキュメンタリーです。



郷土資料 の紹介 (第4回)

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物などを郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様幅広くご利用いただいております。

このコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段は人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介します。

近代日本を代表する青森県出身の作家、太宰治（1909～1948）。その生誕 100 年に当たる今年、県内外で記念事業が行われるほか、作品の新装版刊行や映画化が相次ぐなど、各方面で太宰ブームが巻き起こっています。

そこで今回は、当館所蔵の太宰治作品の中から「新たな視点で味わう太宰の名作」をいくつかご紹介します。

『走っけるメロス』（鎌田紳爾津軽語訳・朗読 未知谷 2009）

”津軽語”に翻訳された「走れメロス」「魚服記」を、太宰の原文と対比しながら読むことができます。附属 CD には”津軽語”での朗読を収録。

『直筆で読む「人間失格」』（集英社 2008）

太宰の貴重な直筆原稿をカラー写真で撮影し、収録したもの。生々しい加筆訂正の跡から、名作「人間失格」の創作過程をうかがい知ることができます。

（ケータイ名作文学）『斜陽』『人間失格』『走れメロス』（ゴマブックス 2008）

文章を横書きにし、随所に風景写真を挿入した「ケータイ小説を読んでいるかのような気分」で楽しめるシリーズ。巻末には若い読者から寄せられた「キョン死に☆」「感動っ↑↑」というコメントも。

『太宰治作品集 全 15 巻』（NHK サービスセンター 2005）

名優による太宰治作品の朗読 CD 集。なお、第 1 巻「魚服記・ロマネスク・雀こ」は伊奈かっぺい、第 10 巻～第 14 巻「斜陽」と第 15 巻「家庭の幸福・桜桃」は奈良岡朋子による朗読です。

『愛ゆえの孤独』（DIGISTIC 2006） ※館内閲覧のみ

青森県を訪れた人気モデル・押切もえが、太宰の足跡を辿りながらその文学作品の魅力を探る DVD。

この機会に、太宰文学の新たな魅力に触れてみてはいかがでしょうか。



近代文学館資料の紹介(第4回)

太宰治 原稿「ねこ」・草稿「人間失格」

青森県近代文学館では、7月11日から9月6日まで、企画展示室において「太宰治生誕100年特別展」を開催しますが、常設展示室にも太宰治のコーナーがあり、こちらに展示されている資料はいつでも見ることができます。

今回は、その中から直筆の資料2点を紹介します。

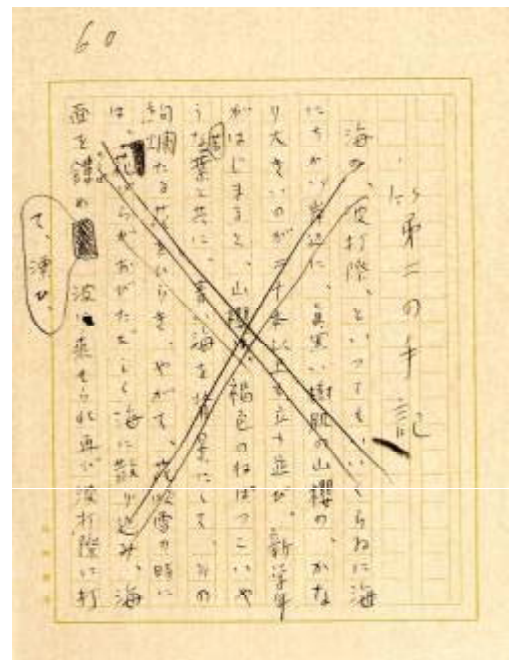


原稿「ねこ」

太宰が1932(昭和7)年の秋、黒虫俊平の筆名で執筆した小説の原稿です。当時、太宰は東京帝国大学の学生で、芝区白金三光町に住んでおり、まだ、太宰治の筆名は用いていませんでした。友人と自筆原稿による回覧雑誌の発行を企画し、掲載を期して書かれた作品が、この「ねこ」です。その後、雑誌の計画が立ち消えとなり未発表に終わりましたが、本文の部分だけは翌々年に発表された「葉」(36の断章からなる小説)の中に組み入れられました。その際、若干の加筆と訂正が施されたことが知られています。

草稿「人間失格」

太宰治の代表作である「人間失格」は、1948(昭和23)年、月刊の文芸雑誌「展望」に3回に分けて掲載されました。7月号に第2回目が掲載されたとき、太宰は既に世に亡く、当時の読者は太宰の遺書を読むような気持で、この作品に接したと言われています。当館では、「人間失格」の草稿を6枚所蔵していますが、そのうちの1枚には海岸に立ち並んだ山桜の花びらが海に散り込む様子が描かれています。太宰が通った旧制青森中学と隣接していた合浦公園の春の情景を彷彿とさせる資料です。



カウンターから一言 (第4回)



今回は、「**パソコン専用席**」についてです。

これまで、青森県立図書館では、持ち込みのパソコンについては、「パソコン使用可能席」で各自のバッテリーによりご利用いただいております。

このたび、調査・研究等のため当館の所蔵資料の情報をパソコン入力されるなど、長時間パソコンを使用される方のために、電源コンセントを備えた「パソコン専用席」を新設しました。

Q 1 どこにあるの？

一番奥のAV資料コーナーに、6席ご用意しました。

また、同コーナー入口の右側に、車椅子利用者用を1席ご用意しました。

Q 2 申し込みは？

3番カウンターにお申し込みください。「利用証」をお渡しします。

Q 3 利用時間の制限は？

利用時間の制限はありませんが、パソコン利用後は、他の席に移動をお願いします。

また、昼食等で長時間、席を空ける場合には、一度「利用証」を返却願います。

Q 4 その他の制限は？

プリンターやスキャナ等周辺機器の持ち込みはできません。

また、インターネットの接続はできません。



編集後記

ホームページを活用しての「県立図書館だより」第4号は、7月11日から開催される「太宰治生誕100年特別展」、「遠隔地返却サービス」及び「パソコン専用席」(カウンターから一言)をご紹介します。

青森県立図書館並びに青森県近代文学館ご利用の参考にしていただければ幸いです。

(広報委員会)